執着と浦島太郎　　ウッドロー・クリス

浦島太郎の考えることを見つけると色々な複雑な説明である。その一つは仏教だ。それによると、浦島太郎が執着を逃がせなかったために悪い業報が出来た。

最初に業報の説明である。かめを助けることで褒美をもらうのは業報ということを分かるものである。そして、首姫の約束を破ったから悪い業報出来た。それは簡単な説明なのだが、業報のようなすべての意味が複雑だから、やはりこの基本的な意味が分かりやすい。

最後に執着の説明である。太郎は恋しくなると持ってないものや感じてない感がほしくて、執着する。それが苦しいから、執着の感じが強くなるから、執着を逃がせないのいうことである。太郎が戻りたくて、箱のふたを取っては執着を象徴することである。おじいさんになることもはくるし執着を象徴することである。それは仏教の考えることである。

もう一つ別の見方を入れるといいでしょう。